

日本浪行梅王出歌落子せり玉急

本輕出善出サレ可シ

酒々

日本銀行請券所遺券  
五年八月五日

乙第 五号

明治五年八月十日

日本銀行創事臨可抄

一 本局志賀其陰



割立 本局人



お常 大阪 西區 京町 堀通 至 丁目 柳山 龍平 君  
銀行 司 長 之 印 本 銀行 株 主 額 出 資 金 出 給 入  
本 人 身 本 額 出 資 金 出 給 入 部 合 右 由 通 電 報 局 手  
送 之 迄 此 如 此 在 也

大阪府西區京町堀一丁目

柳山 龍平

如夏 銀行 司 長

三五

夕カヤス ジエンゾウ、ニホンギンコウ、カブヌレ、手ガビ、ラクシユセリ、シキウ

高安 任造 日本 浪 新 棟 主 新 屋 子 等 玉 急

ホニニシヨリ 子カビシヨサシ 夕スヤシ  
幸く 弓 勢 中 呂 中 三 可 也

Handwritten text in cursive script (草書) on a rectangular slip of paper, featuring large, fluid characters.

Vertical text on the left side of the page, including the characters '日' and '月' at the top, and '志' and '願' at the bottom.

Handwritten text in cursive script on the right side of the page, partially overlapping the slip of paper.

59

Vertical text at the bottom of the page, including a red seal and characters such as '日', '月', '志', and '願'.



Handwritten text in a cursive script, likely a name or title, possibly reading "E. J. ...".

Handwritten text, possibly a date or a short note, appearing as "1895 11".

Handwritten text, possibly a name or title, appearing as "E. J. ...".

Handwritten text, possibly a name or title, appearing as "E. J. ...".

Handwritten text, possibly a name or title, appearing as "E. J. ...".

Handwritten text, possibly a name or title, appearing as "E. J. ...".

Handwritten text, possibly a name or title, appearing as "E. J. ...".

Handwritten text, possibly a name or title, appearing as "E. J. ...".

Handwritten text, possibly a name or title, appearing as "E. J. ...".

Handwritten text, possibly a name or title, appearing as "E. J. ...".

Handwritten text, possibly a name or title, appearing as "E. J. ...".

Handwritten text, possibly a name or title, appearing as "E. J. ...".



者アソハ 後日也 其人主顔ニ愛敬アリ 善也  
唐文ハ 史記ニ 子也 敬アリ





古之語在後如刷馬、刷金、上標秀而刷才  
手就了之所取此亦亦說也

十  
九  
八

三  
二  
一

六  
第  
七  
卷

乙亥八月

明治十五年八月十日 日本銀行創立事務取扱

一 西属志賀隆廣

創立委員負



大坂市之日本銀行 從之松本 幸太郎 日下 幸  
一通電報之申 誠之旨 昨之 採之中 也之 善之 留之 旨 均 旨  
身 電報 之 申 均 採 一 也 之 旨 然 也 也 旨 也

日本銀行 採之 申 也 也 預 八 採 之 旨 額 及 姓名 等

電報 之 採 也 也

スヘラ  
信ヲ頼ミ出

届

如藤

力

新

四

紙 達 送 年 九 十 治 明

スヘラ電信ヲ頼ミ出  
ルモノハ通信規則ノ  
通り心得ベキ事

發

局

着

局

技術

報

第三八號

了印子分局

月十八日

午八時五分

字數九十三字

第二號

大藏省電信會局

八月十九日

輻漢延着

しんあ

届

加藤

カトウ

キッコウ

キヨクテウ

フサカ  
ヒヤクサンシウ

マウモトシウ

ウ	テ	ニ	エ	イ	ク	ゴ	ニ
先	日	ガ	ゴ	ヤ	ノ	ブ	ホ
口	本	ン	カ	ク	ブ	エ	ギ
分	部	ト	ニ	ク	ン	ジ	コ
共	本	モ	ウ	ト	デ	ウ	ウ
計	部	ヲ	子	ジ	キ	ロ	ウ
行	本	シ	ガ	ウ	タ	ク	ウ
六	部	ハ	ガ	マ	セ	マ	イ
千	本	ツ	ワ	ウ	ケ	ン	ガ
四	部	子	ホ	ケ	ン	ン	ガ
出	本	ガ					
年	部						
末	本						
入	部						

日本銀行追込ノ分  
先口分共合計  
本部本雜収  
入

ねむるをさる





日本銀行採<sup>録</sup>已<sup>レ</sup>満額<sup>ノ</sup>付<sup>ル</sup>来<sup>ル</sup>市<sup>場</sup>加入<sup>中</sup>  
此<sup>レ</sup>取<sup>ル</sup>市<sup>場</sup>下<sup>ニ</sup>新聞<sup>ニ</sup>廣<sup>ク</sup>告<sup>ス</sup>マ<sup>ル</sup>事<sup>ニ</sup>

郵便通信文

後<sup>ク</sup>市<sup>場</sup>信<sup>託</sup>ノ<sup>ル</sup>日<sup>本</sup>銀<sup>行</sup>採<sup>録</sup>第<sup>一</sup>次<sup>ノ</sup>採<sup>録</sup>既<sup>ニ</sup>満<sup>額</sup>ノ<sup>ル</sup>日<sup>本</sup>銀<sup>行</sup>加入<sup>中</sup>ニ<sup>テ</sup>新聞<sup>ニ</sup>廣<sup>ク</sup>告<sup>ス</sup>マ<sup>ル</sup>事<sup>ニ</sup>  
有<sup>ル</sup>市<sup>場</sup>信<sup>託</sup>ノ<sup>ル</sup>日<sup>本</sup>銀<sup>行</sup>加入<sup>中</sup>ニ<sup>テ</sup>新聞<sup>ニ</sup>廣<sup>ク</sup>告<sup>ス</sup>マ<sup>ル</sup>事<sup>ニ</sup>  
有<sup>ル</sup>市<sup>場</sup>信<sup>託</sup>ノ<sup>ル</sup>日<sup>本</sup>銀<sup>行</sup>加入<sup>中</sup>ニ<sup>テ</sup>新聞<sup>ニ</sup>廣<sup>ク</sup>告<sup>ス</sup>マ<sup>ル</sup>事<sup>ニ</sup>

明治十五年八月十日

日本銀行創之委吏

大正九年七月廿一日

大正九年七月廿一日

多業舟乞 舫越 衛殿

古城舟乞 人見 寧殿

枋木舟乞 藤川舟祀殿

琦玉舟乞 吉田清英殿

群弓舟乞 楫石素彦殿

東至舟乞各新聞、唐告告

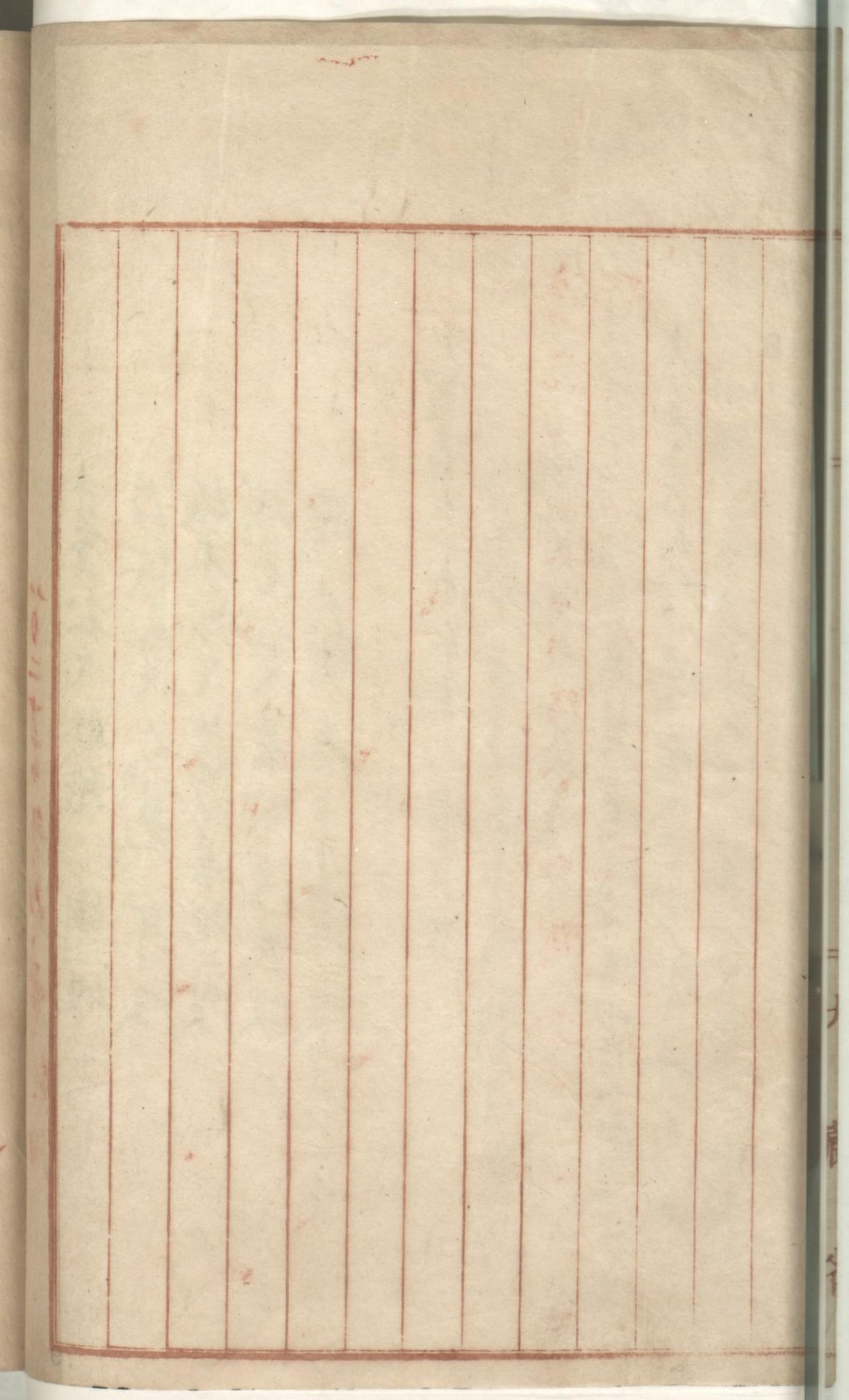
但唐集唐告告、舟乞各新聞、唐告告

採金(備款)、唐告

日本銀行採金唐告、及星屋唐告、備

及舟乞舟加の中、唐告、舟乞舟唐告也

明治十五年(1882)也、日本銀行氣、舟乞舟唐告



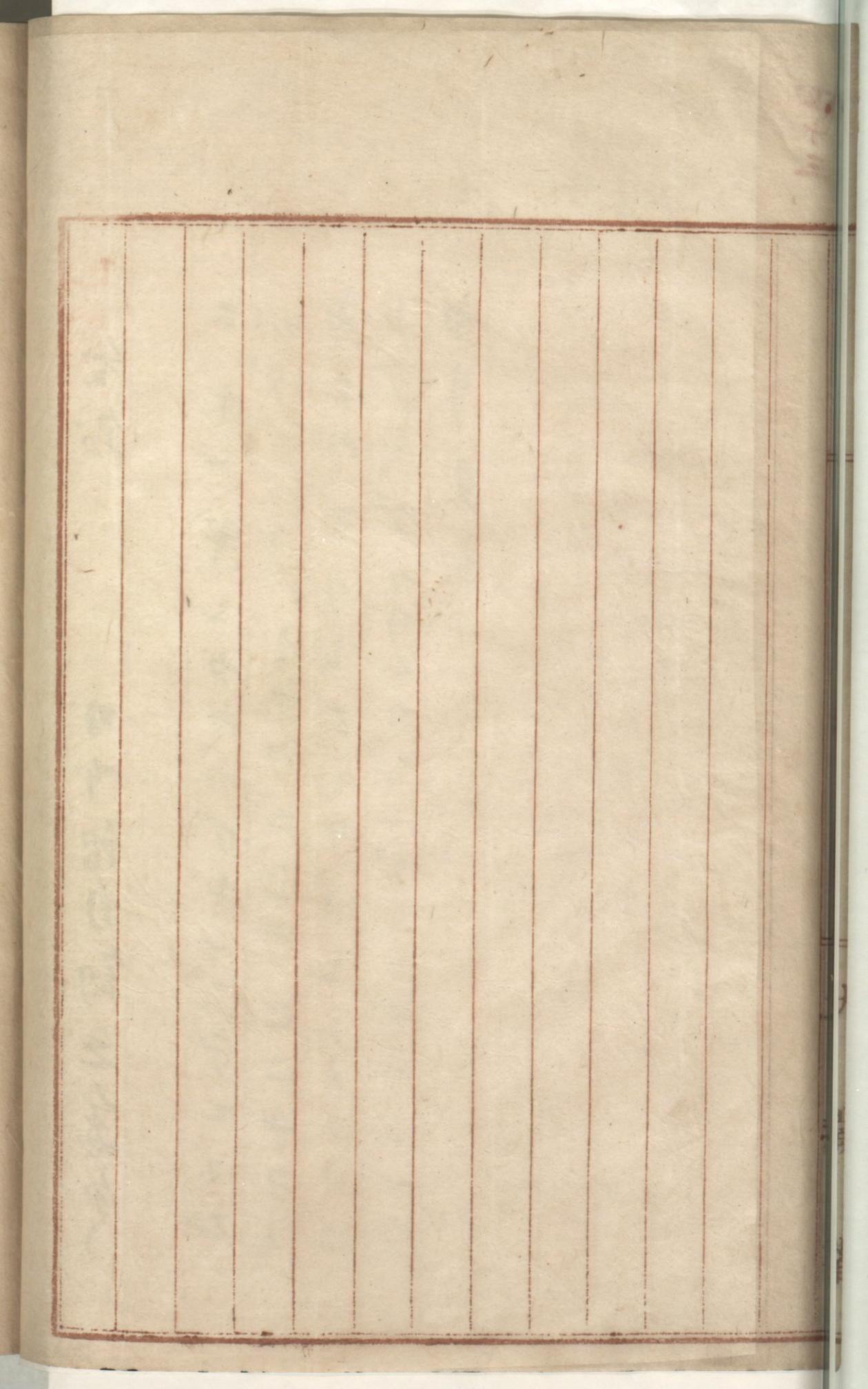
先給

口下館り刻之安ん

ハリニナシるもの知、電以机

ニホしギニカウ、カブキしスデこ、マこ  
 かくニツキ、ミヤウ、ニジウニ二千ヨリ、  
 カニウ、モウミコミヲ、サシトメタリ、コ  
 ノダし、ゴウリシカ、ミコブニニテ、カウコウ  
 アリタシ、

大正東京府五反町、埼玉、群馬、茨城、水戸、  
 栃木、福島、九ヶ所ヲ除中、不詳



日本銀行創設所通函  
五年八月十九日

田十四

乙第 一〇号

明治十五年八月十九日 日本銀行創設所通函

創立委員復



吉野 隆 甫



日本銀行採主申述の中 採擇以て分て暫く 委令  
申述の先 前採擇日 加入の志願 之意 申す 申す  
定より 必要 東京 府 下 町 界 概 略 同 一 部 分  
加入 申述 者、 左 之 通 致 書、 採、 述 行 了 一 部 採 擇 申 述  
也

日本銀行様へ加入し申中込し義共四様

之善分集し我れ松様以らし新通り加入申中込

親之意之旨御事申中込申中込也

叨は五年より申す

日本銀行新し申落り様所

諸君、向きの十様、老玉急下  
此下等し、修りお希ふ迄行

何々 甚殿





乙、第 三 号

明治十五年八月廿二日

日本銀行子務州

以用掛上、床日教

創立委員



日本銀行株券五万  
印刷与古丸之造  
其也

案

一 日本銀行株券

 五万四千枚

但用残額款わ、以与員、打合編

一 才一、回入、金受領証

六百枚

徳正日印

右者今般没之日本銀行に於て不用者  
以向之於多々急調出さるる以向計  
政事を知る右知事送費計算し等  
以向調しと以向之向由知事  
用代雜帳あり第己に以向員十所合已  
控大簿より其の取り計算以向調  
取立り及以向帳簿也

明治十五年八月三日

急之書

印刷局長心



不出依物、通加、中、世、三、五、留、一、廣、古、一、年、孫、市、  
每、反、出、此、之、也、其、或、之、付、一、為、人、急、少、孔、者、中、分、之、也、  
叩、以、中、五、年、ハ、リ、有、テ、。

日、幸、知、り、氣、立、子、務、事、矣、

乃、我、持、大、中、池、音、加、夜、一、橋、  
乃、我、持、大、中、池、音、加、夜、一、橋、

各、所、解、也、官、記、

其、事、亦、強、字、少、則、解、沖、候、為、除、之、

五八廿一

乙、一四号

明治十五年八月十日 東京銀行

一、東京市役所

創之委負

今之討局

代理



お常々之通 東京橋正出所外 一青地 杉田幸五郎  
有出願之委負 創之委負 準備中 持 諸君 概 多 必 様 宜  
団 事 一 二 多 分 五 之 裁 弁 為 之 換 札 者 於 此 一 為 中  
行 事 如 此 於 此 下 於 考 之 手 之 自 出 事 務 所 日 持 介  
お 幸 々 於 此 於 此 股 取 免 也

四十八

書面之趣可尋  
存結之旨是  
物象の棟  
了此半

此法亦年少者

日本學所創之主也

古非推古古記亦如度

大非古古記官之日國鐵三也

濟

願書

今般日本邦行而創立之付同邦  
 之裝飾及之使用之諸道皇下所  
 備付可在來刻之熟及辨及此及事  
 前案之少才之所產後得之也及心  
 右仰自向及意情和所法屬之仰耳  
 持採奉願上度後自然所南物  
 平下物共製送方學守精定之旨  
 上之代價及赤十分六働及疏下不邦合

四十九券

證

無印在之控探即由如物可申由  
何年地際願竟即探用可如探  
者類上非以上

以以幸幸自

京橋區名富雲水多為地  
為得京果世裝飾活也

杉田幸五郎



日本銀行創立可務所如所

印中

乙、一、五号

明治十五年八月廿号

日本銀行可換券  
以用掛上庫以載

急三委之



当事務多担所以印年調致百一  
元之通會計与く以照存之成り也  
以如之向也

一本印業

六顆

但様式文字并部取之也

右者当事務多担原以用高之也



日本銀行  
創立事務  
取扱所印

喜寸

三

銀

喜寸カト

号

カイ

日本銀行創  
立事務所緘

三

最銀行事務連海

年月日

カイ

不許授受

カイ

日報

年月日

号

カイ

二  
故

校  
合  
卷  
①





乙第 一六号

明治十五年七月廿一日 日守部印刷之妻夏



日守部印刷之妻夏



日守部印刷之妻夏



日守部印刷之妻夏  
出多口確定  
一、西籍中  
方却  
改正  
一、西籍  
一、西籍

古今圖書集成

世系錄

一冊

三百枚

世系錄

一冊

三百枚

世系錄

一冊

三百五十枚

世系錄

二冊

三百枚

世系錄

一冊

百五十枚

世系錄

三冊

三百枚

世系錄

一冊

百五十枚

世系錄

五冊

三百枚

世系錄

一冊

百枚

世系錄

一冊

百枚

世系錄

一冊

百枚

古今圖書集成

於八冊

有ハヨク仲力劇之旨ヲ用テ宗別哉  
離散ノ程ナク且多ク宗造トシテ  
以テ及マシテ人會ナク也





乙ノ第十七号

明治十五年八月廿六日

日中館の創立を務取振

一 等之属志賀隆庸

創立委員

過る電報の以て 株主加力致る中 越々其意  
に由りて 別書不列達分如たに あり 誠意  
あり 案に 其意 以て 電報 あり 案に 其意  
あり 案に 其意 以て 電報 あり 案に 其意

一 百株

金山方面

大坂

阿部金次郎

一 五十株

金山方面

神戸

由井正之

切手券

一 十株

金山方面

福井

由井正之

五十四

一 四万石手廻

皇女方の手廻

愛知郡

一 杉山村

皇女方の手廻

宮城郡

一 止取

皇女方の手廻

沼津郡

一 宮野五村

皇女方の手廻

福井郡

一 七石

皇女方の手廻

大坂府

而取之入手廻

手廻の事

手廻の事

手廻の事

手廻の事

手廻の事

○

ガクトモ。マイ  
ヨウ。ヲタツ

イケレハ。キ

ニホニギ

ネガヒイヅ

ウハ。カニウノ

一 四万九千石

金九万石

高知

一 杉山

金五万石

高知

一 止

金三万石

高知

一 之

金三万石

高知

一 七

金五万石

高知

而... (faded text)

... (faded text)

丁未二月...

...

人氏、

...

...

...

...

...

7

紙 達 送 年 治 明

五十五

ベキ事

技術	局		第 白 分 局 號	局			發	
	午 三時 分	月 — 日		字 數 三 字	午 三時 分	月 九 日	川 口 分 局	第 二 三 號

Handwritten signature/initials

所部會以何式新象加入部小

大改江戸堀  
カ四十二部力

Handwritten notes and symbols, including checkmarks and numbers

Handwritten notes in the top right section

Handwritten notes in the bottom right section





開 台 十 年 發 票 簿

姓 潘

錢		圓		善		圓	
積	...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...	...

Handwritten red text, likely a receipt or ledger entry, containing characters such as 壹, 元, 正, 肆, 角, 伍, 分.

Vertical handwritten entries in black ink, possibly representing numerical values or dates.

Handwritten notes or calculations in the left margin, including characters like 壹, 元, 正, 肆, 角, 伍, 分.

Handwritten notes or calculations in the bottom-left margin, including characters like 壹, 元, 正, 肆, 角, 伍, 分.



册 部 十 女 羊 彖 彭 越

对 潘

鼠		鼠		鼠		鼠	
子	子	子	子	子	子	子	子
鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠
子	子	子	子	子	子	子	子
鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠

三十七年八月廿九日  
 日本原年 越山坊院坊 回宗花一林

Handwritten vertical text in cursive script, likely a list or record of names and dates.

Handwritten vertical text in red ink, possibly a signature or title.





通リ心得ベキ事

多子報

第三十八號

大塚分局

八月十八日

午三時五分

字數 一十一字

多子報 號

大藏省電信會局

八月十八日

技術

とらふ

ニツホレキコウ  
ソウリツ

ニホ  
子ガ  
イ  
サ  
マ  
マ  
カ  
ニ  
ウ  
セ  
ゴ  
ゼ  
ハ  
ガ  
マ  
ト  
ニ  
ハ  
エ  
ウ  
リ  
ガ  
マ  
ス  
コ  
ダ  
ジ  
ツ  
ツ  
タ  
ツ  
ヨ  
ブ

日本銀行加入追領三萬四千円前取ト  
合ヒ五拾ハネ或チ四回ノ引書ハ不日  
送達スル事アル以テ通知スル

五十九

多子報

漢字の字







乙第一八号

明治二十九年八月二十日

日本銀行 東京支店

吉村 隆三 様

新之妻 様



日本銀行 東京支店  
五年九月二日

日本銀行 東京支店 一四〇五五番  
三井銀行 信託部 東京支店  
東京支店 信託部 東京支店 東京支店

日本銀行 東京支店 一四〇五五番  
同支店 東京支店 東京支店 東京支店  
東京支店 東京支店 東京支店 東京支店

此亦由生也  
此亦由生也

四行字亦有カリ下

日本銀行 創設 下 陽 幸 久

才 國三銀行

才 國三銀行

三井銀行

各 通 出 中

亦 幸 久 取 出 此 行 以 取 信 用 為 幸 久  
亦 幸 久 取 出 此 行 以 取 信 用 為 幸 久

乙、茅一九号

剛治十五年一月一日  
日岸浪新向三五年

卿

疏

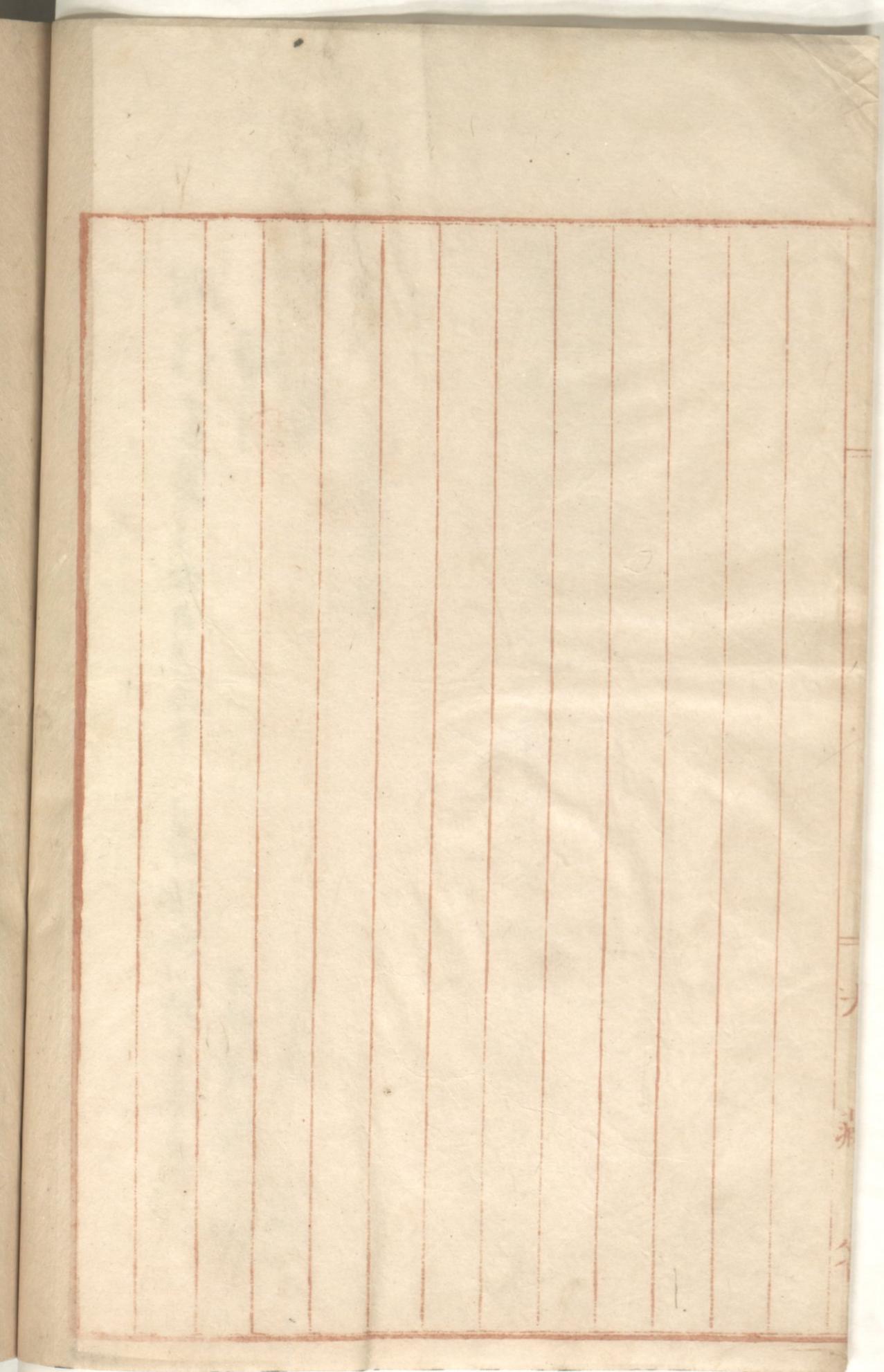
三孝堂社

富田茂三印

加茂

濟

日岸浪新向一四採色入至子後左之五相定系  
北味水相定也



明治十五年九月二日

日本銀行創主事務取扱

一、本行創主事務取扱

創主委員



日本銀行創主加入申込一書、石、本行、出件、て、前、  
加入申込ニ、應、答、紙、枚、少、分、り、本、行、に、申、込、事、件、に、  
係、り、一、二、三、紙、枚、出、裁、本、行、に、申、込、事、件、に、  
係、り、一、二、三、紙、枚、出、裁、本、行、に、申、込、事、件、に、  
係、り、一、二、三、紙、枚、出、裁、本、行、に、申、込、事、件、に、

日本銀行創主ニ、裁、採、好

角、金、額

衆、申、

込、了、意、旨、旨、子、廣、告、及、通、知、面、入、重、ト、一、採

以爲無身重回治命之割合之未下九月十五日  
同辛卯日每相違也當時路所收之相成日種之  
區牙之布一尤在東京府之中國三張紙乃三國三紙  
折之入并張紙於之入重更不方可換金現重或  
爲換者之便宜回重更之同時之當時路所  
充左形之通紙去古回還之布一此紙乃在通紙  
也

但東京府之換至之布一信張紙亦大重之  
日辨之布之形紙之布路所通紙之布一且曾  
廣者之布換之入重割合亦合亦通紙也  
明治十五年九月二日

乙未代書中

日本銀行創立之路委負

何 某殿

当年路所究回区地吉士解形

争河解

东家河之限行其推考或现在未区所

但推考何样分一捺少之解之白於解之到

右者日本限行抹重中一画入重之之东家河之

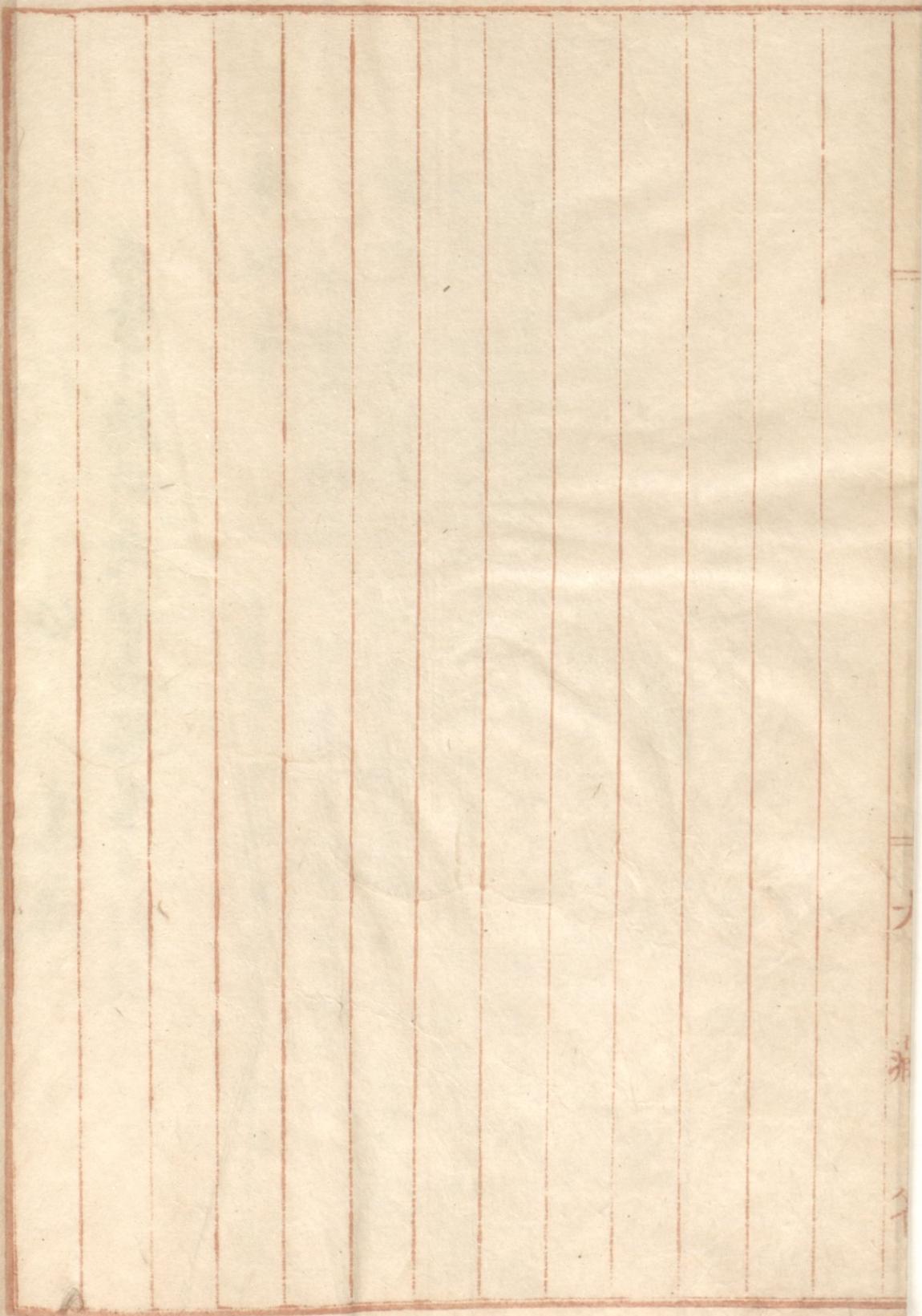
限行、向之现重式、为推重之之何之当地之之

此亦在也其书也 日之之者之之之领之之之在也

听信于其书也 何之者者之何之何所却何者地

何 何 何 何

日本限行到三之路在何所出中



採寸入色到會

一日本浪新採寸入色到會、採寸入色に可し

才一回

四拾圖 (採寸入色)

但明徳十五年九月十日より四日迄入色に事

才二回

少拾圖 (採寸入色)

但十六年五月十日より十日迄入色に事

才二回

少拾圖 (採寸入色)

但十六年十月十日より十日迄入色に事

才一回

少拾圖 (採寸入色)

但十七年五月十日より十日迄入色に事

一才一回に採寸入色に浪新、都合に事、採寸入色に可し其

初浪、採寸入色に事、採寸入色に事、採寸入色に事、採寸入色に事

負額、一回毎に事採寸入色に事、採寸入色に事、採寸入色に事

毎中三冊に書く

乙茅二〇号

明治十五年九月四日

日本銀行 創三子路取

志丸具 (各庄)

創三子路取

お市へ通市刷馬長、出立金お市へ代り此にお市、  
也

お市へ持日本銀行様へ、通出金のお市は  
お市刷方にお市取及にお市へ通市中製表此にお市  
とお市へ通市中にお市へ

お市へ通市中にお市へ

市制局長 出

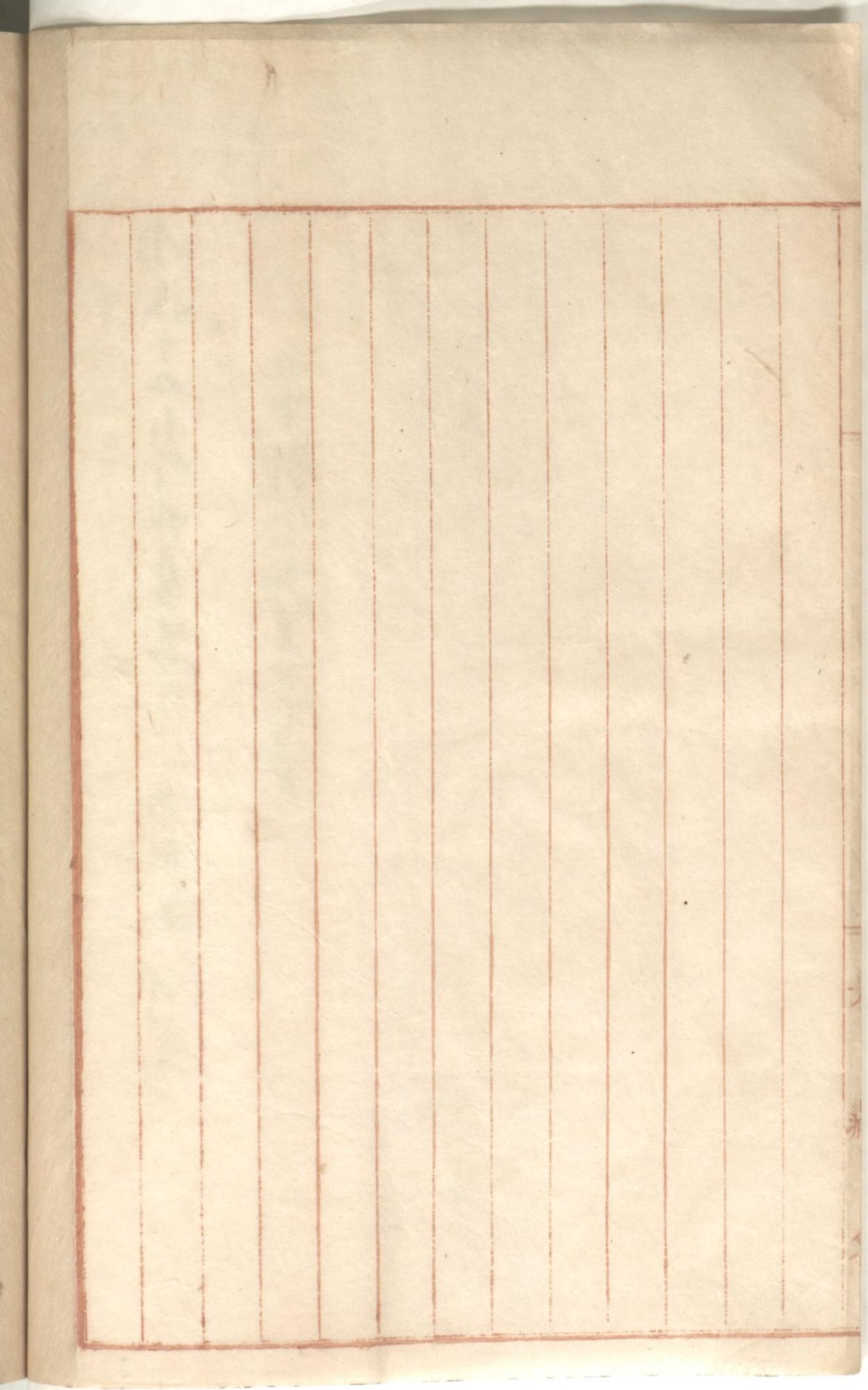


何事平年如月也

日者此の句之末久

何事平年如月也





ふ、以、其、の、福、祿、を、其、の、心、に、正、有、は、其、の、心、有、  
ト、し、人、を、ま、る、く、三、つ、角、に、、其、の、心、に、正、有、は、其、の、心、有、  
ト、し、  
十

十五  
九、の、心、に、

の、心、に、正、有、は、其、の、心、有、

心、に、正、有、

心、に、正、有、



乙卯二三号

明治十五年一月廿日

日守洋行創設三戸路事務所

吉村貞一(印)

創立委員

因身より出かひおれり採集より回入るるに  
左に記し、さし通す年一あ成り生れ此の如  
也

二年の集

日守洋行採集より回入るるに  
制定して

一採集品より回入るるに制定して  
より回入るるに制定して

ふん送付し義各様主、報道通球、身國存  
御加のり御相成、義五十年様、對之、身一圓、入  
至額千五百圓、義七集三十、心、出、理、進、成  
五十年、身、一、也

明治十五年九月一日

日守保行刺三、身、之

大花、持、大、出、比、古、如、夜、(齊)

大花、大、出、比、古、如、夜、(齊)

大花、少、持、古、原、主、儀

大花、少、持、古、原、主、儀





日者世行創三事矣

古者格古也安也為濟

古者太古也友也曰為子

古者少也也也曰為子

古者何格也古義也



乙第二五号

明治十五年九月二十日 日本銀行 手続取扱

志賀屋隆吉

割三委更



お申しと無借掛あり申するも在り申す計  
向長、此指送を申す此外此あり是也

一平之千金也

向長を申す事ある事あり

右者日本銀行の送金票は此の海商の交時

此の海商の交時

明治十五年九月二十日 日本銀行 割三委更

子田城子

子田城子

子田城子

乙 第二十六号

明治十五年七月廿七

〇年〇月〇日〇〇〇〇

河内 〇〇〇〇

創立委員

高子智法明の、移住するに當る者高直し  
は、新交知るに情も乏し、信を以て中々  
樹へ、其の、入公中、おは、おは、おは、

東

本館 〇〇〇〇  
一 〇〇〇〇 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 〇〇〇〇

〇〇〇〇 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 〇〇〇〇

〇〇〇〇 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 〇〇〇〇

〇〇〇〇 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 〇〇〇〇

宿直为尔子身有自  
德得年息者中如也  
尔时尔身可又需也

日  
別立委負

敬負捕

中

明治十一年九月十日

子物取取

創立事務所表

是處に事務所、小使給仕増加不付  
為事務所、是處に同扱使給仕、  
同扱、給仕或人上役二人増加  
を以て、因るに、  
定斗る、り、  
給仕或人

小使或人

右是處に、  
同扱、  
給仕或人

明治十一年





移轉おと付雷おと候しあし郎便行  
幸ッ都ニおのふとく解き道あり至りぬ  
乃しけりおのふ也

り 大我大に記官る白襪之物

駈逐し与

る

壬午年九月三日

乙、第二十九号

西曆十五年九月十日 日本銀行創設五十周年紀念

志賀重昂

創設五十周年紀念



此乃由本行以前所積蓄之儲蓄金上所接自一五〇〇〇  
萬圓之額。其出資者乃左列之諸君。創設五十周年紀念  
一名義之在彼。故今也。此所記之者。其代此而記也。

川島正訓

日本銀行創設五十周年紀念

五拾萬圓紀念

此乃千三百年前之字

以存世所創之字格

明治十五年九月一日

日本銀行創立事務取扱三田信



日本銀行創立事務委員



九号属逸見清晨、正之居残为証、九年上申按伺

九号属逸見清晨、正之居残为証、九年上申按伺

九号属逸見清晨、正之居残为証、九年上申按伺

大、有云就、也

上申案

九号属逸見清晨

吉、日本銀行創立事務取扱三田信

付候、本居、正之居残为証、九年上申按伺

明治十五年九月一日

但、事務、正之居残为証、九年上申按伺

日

加茂 濟

此處の刻をよつて委員官田城之也

大花之村才正義殿

乙卯年三月一號

國治十五年九月十三日

日本留學子習習

河 至 規

創立委員



昔、我々中へ、  
宗、  
了、

宗

二階、  
宗、

宗、

宗、

会斗与女

辛酉秋行跋

乙卯年三月二十日

四月十五日

日景限行

劉立妻

氏

三子



日景限行... 劉立妻... 氏... 三子... 乙卯年三月二十日... 四月十五日... 日景限行... 劉立妻... 氏... 三子...





利正  
九月十四日印刷受取  
中

九月十四日印刷受取

一  
四  
管下  
郡

殿日本銀行株金第

壹圓入金トシテ金

四  
圓当行々持參相成候間額

面受取澄沔流口生及候也

明治十七年九月

銀行

日本銀行創立事務取扱所印中